

2020 年 3 月 25 日

報道関係各位

三菱地所株式会社
新潟県小千谷市

— “日本を明るく、元気にする街”として東京駅前から日本の文化・魅力を発信し、地方創生へ —

「東京駅前常盤橋プロジェクト」広場に 泳ぐ宝石「錦鯉」の池を設置

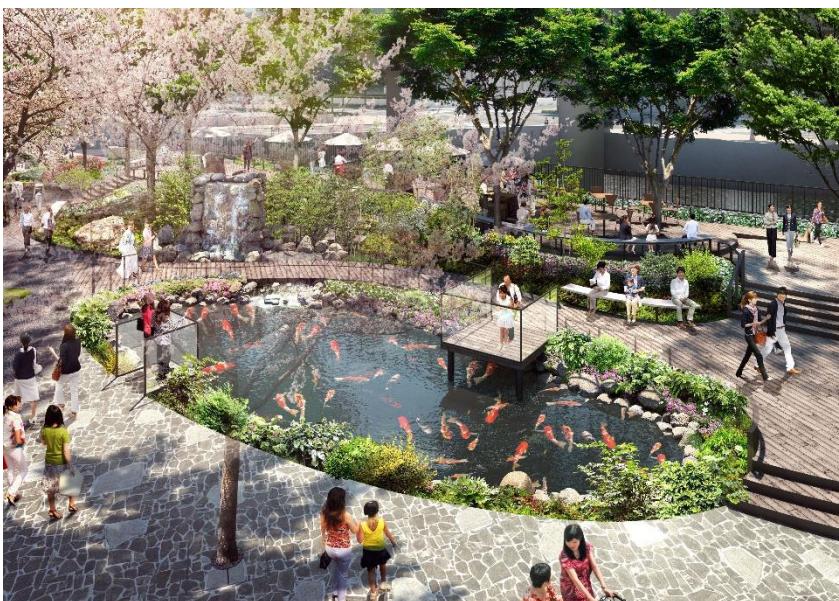
三菱地所株式会社と新潟県小千谷市は、東京駅日本橋口前にて三菱地所が再開発施行者として取り進めている「東京駅前常盤橋プロジェクト※1」の大規模広場内において、「錦鯉」が泳ぐ池の設置を協働で行うことにつき、2020 年 3 月 25 日付で合意しましたのでお知らせいたします。池の完成は 2021 年夏頃を予定しています。

「東京駅前常盤橋プロジェクト」では、“日本を明るく、元気にする街”をコンセプトに、全国の様々な自治体と協働した取り組みを進めています。今回の「錦鯉」の池はその一環として約 7,000 m²の広場空間の一部に設置するものであり、多くの観光客等で賑わう東京駅前に、別名“泳ぐ宝石”とも称される「錦鯉」を間近で鑑賞できるゾーンを整備いたします。

三菱地所と小千谷市は、「錦鯉」が泳ぐ池を含む PR ゾーンの設置を通じて、東京駅前から地方創生に貢献することを目指し、小千谷市の魅力を全国、そして世界へと発信していきます。

【「錦鯉」が泳ぐ池の特徴】

- (1) 「東京駅前常盤橋プロジェクト」大規模広場内に、「錦鯉」発祥の地として知られる小千谷市と協働して、優美な「錦鯉」が泳ぐ約 70 m²の鑑賞池を設置。世界中から多くの観光客や周辺エリアのワーカー等が訪れる東京駅前に賑わいと憩いの空間を創出。
- (2) 池を含む「小千谷市 PR ゾーン」（約 230 m²）を活用した錦鯉飼育セミナーや即売会の実施等を通し、「錦鯉」に関する魅力や情報の発信、同市特産品のプロモーション機会を創出。
- (3) 大規模な広場を活かした交流・体験イベントの企画を通して、地元民間事業者等が首都圏で活躍できる仕掛けや首都圏企業とのコミュニケーションプラットフォームの構築に寄与。



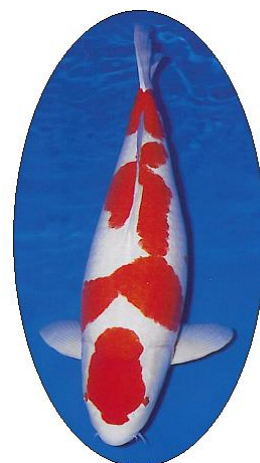
▲ (左)「錦鯉」の池イメージパース、(右)「東京駅前常盤橋プロジェクト」街区全体イメージパース

Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.

■1. 小千谷市の「錦鯉」について

「錦鯉」は、小千谷市東山地区などからなる二十村郷と呼ばれた地域が発祥とされ、江戸時代ころに、食用として飼われていた鯉に突然変異で色がついたものが最初といわれています。「錦鯉」は、雪国の清らかな水と伝統の技法で育てられた独特な色調を持つ流麗な体形から、別名“泳ぐ宝石”とも称されており、ケンカをしない習性から“平和のシンボル”とも呼ばれています。鯉師（生産者）が長い年月をかけた努力と技術があつてこそ生まれる「銘鯉※2」は、まさに芸術品といえます。小千谷で飼育された錦鯉の品質は高く、全日本総合錦鯉品評会で多数入賞をいただいております。また、同市は2014年、「錦鯉」を市の魚に制定しています※3。

*小千谷市ホームページ：<https://www.city.ojiya.niigata.jp/>



▲小千谷市「錦鯉」イメージ

■2. 「錦鯉」が泳ぐ池の特徴

(1) 東京駅前に賑わいと憩いの空間を創出

- ・「東京駅前常盤橋プロジェクト」大規模広場内に、「錦鯉」発祥の地として知られる小千谷市と協働し、優美な「錦鯉」が泳ぐ約70㎡の鑑賞池を設置。世界中から多くの観光客や周辺エリアのワーカー等が訪れる東京駅前に賑わいと憩いの空間を創出。

(2) 小千谷市の特産品をプロモーションする機会の創出

- ・「錦鯉」が泳ぐ池を含む「小千谷市PRゾーン」（約230㎡）を活用した錦鯉飼育セミナーや即売会、品評会の実施等を通し、「錦鯉」に関する魅力や情報の発信、農産物、米菓、日本酒といった同市の特産品をプロモーションする機会を創出。



▲小千谷市特産品イメージ

<「小千谷市PRゾーン」概要>

計画面積：約230㎡

場所の使用期間：2020年11月～10年間（予定）

活用例（検討中）：①動画・パンフレットなどにより小千谷市の様々な魅力をPR

②試食・試飲・販売により農産物、米菓、日本酒などの小千谷市の産品をPR

③優雅に泳ぐ原産の「錦鯉」をいつでも見ることができる約70㎡の観賞池を整備（2021年夏頃完成予定）

(3) 地方の民間事業者等が首都圏で活躍できる仕掛けの構築

- ・都心部で有数の大規模広場を活かした交流・体験イベントの企画を通して、地元民間事業者等が首都圏で活躍できる仕掛けや首都圏企業とのコミュニケーションプラットフォームの構築に寄与。



▲「錦鯉」の池イメージパース



▲「錦鯉」の池／位置図

【参考】

※1「東京駅前常盤橋プロジェクト」について：

本プロジェクトは、東京駅周辺で最大となる約 3.1ha の敷地に、10 年超の事業期間をかけて段階的に 4 棟のビルと 7,000 m²の広場開発を進める計画。2016 年 4 月より既存ビルの解体工事をスタートし、2018 年 1 月より高さ 200m 超の A 棟（2021 年 6 月末竣工予定）の新築工事を着工している。更に 2023 年には、東京の新たなランドマークとなる高さ約 390m の B 棟の新築工事着工を予定。「東京駅前常盤橋プロジェクト」の広場においては、開発期間中に企業や自治体との協働企画を順次実行している。

＊「東京駅前常盤橋プロジェクト」ホームページ：<https://www.mec.co.jp/tokiwabashi/>



▲全体開業時の街区全体イメージパース／東京駅丸の内側より

▲A棟開業時の暫定広場イメージパース／東京駅日本橋口側より

< 事業概要 >

事業名称	大手町二丁目常盤橋地区第一種市街地再開発事業			
計画地	東京都千代田区大手町 2 丁目、中央区八重洲 1 丁目			
敷地面積	約 31,400 m ²			
総延べ面積	約 680,000 m ²			
棟別緒元	A 棟	B 棟	C 棟	D 棟
主要用途	事務所、店舗、 駐車場等	事務所、店舗、 駐車場等	店舗、変電所、 駐車場等	事務所、下水ポンプ所、 駐車場等
延べ面積	約 146,000 m ²	約 490,000 m ²	約 20,000 m ²	約 30,000 m ²
階数／ 最高高さ	地上 40 階・地下 5 階 ／約 212m	地上 61 階・地下 5 階 ／約 390m	地上 1 階・地下 4 階	地上 9 階・地下 3 階 ／約 65m
着工 (予定)	2018 年 1 月	2023 年度	I 期 2018 年 1 月 II 期 2023 年度	2017 年 4 月
竣工 (予定)	2021 年 6 月末	2027 年度	I 期 2021 年 6 月末 II 期 2027 年度	2022 年 3 月末
設計監理	株式会社三菱地所設計	未定	株式会社三菱地所設計 II 期 未定	株式会社三菱地所設計 日本水工設計株式会社
施工	戸田建設株式会社	未定	戸田建設株式会社 II 期 未定	三井住友建設株式会社
事業権利者	三菱地所株式会社、東京都下水道局、株式会社大和証券グループ本社、 株式会社三越伊勢丹、東京電力パワーグリッド株式会社、有限会社大手町開発、 独立行政法人都市再生機構、他			



▲現況配置図



▲完成予定図

<広場における自治体との協働事例>

「静岡県裾野市様」との連携による、街区内の既存中央道内における緑化事例。静岡県裾野市様と連携し、街区内の工事に伴い閉塞した地下への出入口の上部に、裾野市様が開発した薄層緑花システム（FSG システム）や季節の花々を植えることで、中央通路を「うるおいある緑の空間」に生まれ変わった。

*協働にご興味のある自治体の方は、下記窓口までお問い合わせください。



※2 銘鯉（めいり）について：

全国規模の品評会での入賞魚の中でも、美的価値の極めて高い鯉を指す。

※3「錦鯉」を小千谷市の市の魚に制定：

小千谷市では、中越大震災（2004 年）からの復興の象徴として、震災から 10 年の節目に合わせて 2014 年に「錦鯉」を市の魚に制定。中越大震災での被災経験や、その後の復興とともに象徴する「錦鯉」を市の魚に制定したことは、中山間地域などを中心とした錦鯉産業という地域の生業の維持と振興という意味を込めた。震災から復旧した養鯉池で優雅に力強く泳ぐ「錦鯉」の姿に、さらなる復興と飛躍への思いを託し制定に至った。

以 上

○丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」



丸の内
Re デザイン

三菱地所は、2020 年以降の丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ※」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf

<本件に関する自治体からのお問い合わせ先>

三菱地所株式会社 常盤橋開発部 TEL：03-3287-6365